

『ラチとらいおん』
いぬも暗い部屋も、友だちさえ怖い世界—弱虫な男の子のラチのもとに、小さな赤いらいおんがやってくる。体操や訓練で強くなり、ラチはついにいじめっこをやっつける。シンプルな絵と共感できる内容で親しみやすい。
マレーク・ペロニカ 文・絵
とくながやすもと 訳 福音館書店

『おちやのじかにきたとら』
ソフィーとお母さんがお茶の時間にしようとした時、お腹をすかせたとらがやってきた。とらはソフィーが差し出す食べ物や飲み物をたべ、水道の水まで飲みほしてしまふ。奇想天外なストーリーと鮮やかな色使いが印象的な絵本。
ジュディス・カー 作
晴海耕平 訳 童話館出版

『かいじゅうたちのいるところ』
狼の服を着て騒ぎ、お母さんに寝室に放り込まれたマックス。寝室に木が生え波が打ち寄せ、船に乗り一年と一日航海すると、そこは「かいじゅうたちのいるところ」。王様になり、かいじゅうたちと思い切り遊んだマックスは、やがて家が恋しくなり帰ってくる。
モーリス・センダック 作
じんべうてるお 訳 富山房

『めっきらもつきらどおんどん』
神社まで行ったけれど遊ぶ友だちが誰もいないかんた。大声でめちゃくちゃな歌を歌うと、へんてこりんなお化けがいる不思議な世界へ。もんもんびやっこやしっかかもっかか、おたからまんちんとかんたの大冒険。ダイナミックな挿絵も魅力的。
長谷川祺子 作
ふりやなな 画
福音館書店

『ピーターラビットのおはなし』
ピーターは、マフレガーさんの畑で野菜を食べているところを見つかった。靴や服をなくしびしょぬれになりながらも、ピーターはなんとか家にたどり着く。
淡い色彩の優しいタッチの絵が魅力的な絵本。
ビアトリクス・ポター 作・絵
いしいもこ 訳 福音館書店 ★

『すてきな三にんぐみ』
黒マントに黒い帽子がトレードマークの泥棒三人組。誘拐した女の子に、お主の使い道を聞かれ、思いついたことは。前半の泥棒の怖い印象とは違つて、後半は心温まるすてきなお話。
トミー・アングラー 作
いまえよしとも 訳 偕成社

『わゴムはどのくらい
のびるかしら?』
ある日、ぼうやは輪ゴムがどれくらい伸びるか試してみることにした。部屋から外へ、バスで、汽車で、飛行機で、輪ゴムはどんどん、どんどん、どんどん伸びて…。子どもの想像力がふくらむ絵本。
マイク・サーラー 文
ジェリー・ジョイナー 絵
きしだえりこ 訳 ほるぷ出版

『よかったねネッドくん』
田舎のパーティーに招かれたネッドくん。友達に飛行機を借りたものの途中で爆発。運よくパラシュートで助かるが穴があいていて…。「よかった」はカラー、「でもたいへん」は白黒のページで、ネッドくんに起こる出来事を交互に描き、幅広い年齢の子が楽しめる。
レミー・チャーリップ 作
やぎたよしこ 訳 偕成社

『昔話』
おじいさんの植えたかぶは、とてつもなく大きくてとても一人では抜けない。おばあさんやまご、ねこやねずみを呼んできて、力を合わせて「うんとこしょどっこいしょ」。やっと抜けたときの達成感とリズム感のある言葉の響きが楽しめるロシアの昔話。
A.トルストイ 再話
内田利沙子 絵 佐藤忠良 絵 福音館書店

『てぶくろ ウクライナ民話』
冬の森、おじいさんが雪の上に落とした手袋にねずみがかぐりこむ。かえるやうさぎ、次々に大きな森の動物たちが入っていき、ぎゅうぎゅうづめの手袋の家に「わしも入れてくれ」と、くままでやって来た。動物たちの会話も楽しいウクライナの民話絵本。
エウゲーニー・M-ラチョフ 絵
うちだりさこ 訳 福音館書店

『いたずらきかんしゃ
ちゅうちゅう』
小さな機関車ちゅうちゅうは、貨車や客車に荷物やお客さんを乗せて、大きな町まで走る。ある日、ちゅうちゅうは自分だけならどんなに速く走れるだろうと考え、機関士たちの隙を見てひとり走り出すが…。
バージニア・リバー・バートン 文・絵
むらおかはなこ 訳 福音館書店

『おだんごばん』
おばあさんが、粉箱をぐしぐしひつかいておだんごばんを焼いた。窓のところで冷やされたばんは、いすからゆかに、ゆかからおもてのとおりへ逃げだした。食べられないよう逃げて逃げてとうとう…。
ロシアの昔話。
瀬田貞二 訳
脇田和 画 福音館書店

『三びきのやぎのがらがらどん
アスビヨルセンとモーの北欧民話』
三びきのやぎのがらがらどんが、山の草を食べて太ろうと山を登る。途中の谷川に住む怪物のトロルが、「ささまをひとのみにしてやるぞ」とどなるが、小さいやぎと二番目のやぎが機転を利かせて逃れたあと、大きいやぎがトロルを谷川へ突き落とす。
マーシャ・ブラウン 絵
せたていじ 訳 福音館書店

『おおかみと七びきのこやぎ』
お母さんやぎの留守におおかみは七びきのこやぎをだまし、柱時計の箱に隠れたこやぎを残して丸飲み。お母さんやぎは野原で寝ているおおかみを見つけ、おなかをはさみで切ると…。落着いた色の絵が魅力。
グリム(著)
フレックス・ホフマン 絵
せたていじ 訳 福音館書店

『だいくとおにろく』
川に橋を架けることを頼まれた大工。困っているところに出てきたのは川に住む鬼。橋を架けるかわりに目玉をよこせと大工に迫る。大工と鬼のやりとりが何とも楽しい。迫力ある絵が魅力的な昔話絵本。
松居直 再話
赤羽末吉 画 福音館書店

「家読(うちどく)」のススメ
「家庭ふれあい読書」を意味する「家読(うちどく)」は、「家族みんなで読書をすることで家族のコミュニケーションを深める」ことを目的とした読書運動です。「子どもと本をつなぐ・子どもの本でつながる」そんな素敵なひとときを過ごしてみませんか。各ご家庭に合った方法で、本に親しみましょう。

● 対象年齢は目安ですが、発達段階に即して並べてあります。シリーズや続編のある作品には、出版社名に★印がついています。
● ここで紹介する本は、千葉県内の図書館司書が所属する、千葉県公共図書館協会が選んだものです。
● このリーフレットは千葉県教育委員会のホームページからダウンロードできます。非営利目的に限り、複製・配付ができます。

発行／千葉県教育庁教育振興部生涯学習課
〒260-8662 千葉市中央区市場町1番1号 TEL：043-223-4072 FAX：043-222-3565
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shougaku/dokusho/index.html>



保護者の皆様へ

100冊
友だち
できるかな?
図書館司書が選んだ
(乳幼児向け)
子どもに読んでほしい本100選
千葉県教育委員会

～「子どもと本をつなぐ」・「子どもの本でつながる」読書活動～
読書習慣を身に付けるためには、子どもが本の楽しさや魅力を感じる機会が必要です。本に触れるきっかけがあり、手を伸ばすと好きな本や調べたい本がある。「子どもと本をつなぐ」取組や読書環境が本好きの子どもを育てます。
また、社会には、読書の大切さを知り、子どもの健やかな成長を願う人が多くいます。その人々がもっている知識・情報・技能・思い等は多様です。そうした大人同士や大人と子どもが読書活動でつながる、すなわち、「子どもの本でつながる」ことで生まれる効果は計り知れません。
ここに紹介する本は、千葉県内の図書館司書が、子どもたちやご家族の方にぜひおすすめしたい本として選んだものです。家庭で過ごすひととき、お子さんと一緒に本を読んでみませんか?
乳幼児期の読み聞かせはお子さんとの絆を深める大切な時間となり、保護者の皆様も読書の楽しさを改めて発見できるのではないのでしょうか。

0～2歳
『いない いない ばあ』
ねこ、くま、きつねが次々に出てきて「いないいない」と言った後、ページをめくると「ばあ」の顔をする。その繰り返しで心地よく、赤ちゃんの笑顔を誘う。最後に「いない いない ばあ」をするのは誰かな?
1967年発行のロングセラー。
松谷みよ子 文
瀬川康男 絵 童心社

『ととけっこう よがあげた』
「ととけっこう よがあげた…」やさしい歌で、寝ている動物たちを起こして歩くのはニワトリさん。最後はみんないっしょに「おはよう」。赤ちゃんの目覚めの時に歌ってあげたい、わらべ歌絵本。
こばやしえみこ 案
ましませつこ 絵 こぐま社

『あかちゃんとお母さんのあそびうたえほん』
「めんめんすーすー」「うまはとしとし」「にーざりぱっちり」等、手・顔・体を使って親子で楽しむ21編のあそびうたを、イラストと遊び方の解説付きで分かりやすく紹介。親子のスキンシップにおすすめの一冊。
小林衛己子 編
大島妙子 絵 のら書店

『じゃあじゃあびりびり』
自動車が「ぶーぶーぶーぶー」、水が「じゃあじゃあ」、紙が「びりびり」、擬音語のリズミカルなくり返しで心地よく、赤ちゃんの興味を引く。シンプルではっきりとした絵で、首が座る頃から楽しめる。小型で丈夫な厚紙絵本。
まついのりこ 作・絵
偕成社

『かお かお どんなかお』
たのしい顔、泣いた顔、眠った顔、たくさんいろいろな表情を切り絵で表現。赤ちゃんはもちろん、幼児も絵を見ながらいろいろな顔をして楽しめる絵本。
柳原良平 作・絵
こぐま社

『ころ ころ ころ』
いろいろな色だまがかいだんみちや、さかみちを「ころころころ」と上ったり、下りたり。ページごとに変わる背景と色だまを追っていくと、色だまは終点にたどり着く。鮮やかで動きのある絵とリズムのある言葉を楽しめる。
元永定正 作・絵
福音館書店

『ごぶごぶ ごぼごぼ』
「ぶーん」「ぶく」「ぶくぶくくん」いろいろな音。音の響きやリズムの楽しさをあざやかな色のついたまるの動きで表した絵本。
駒形克己 作
福音館書店

『おつきさまこんばんは』
暗くなった空にまん丸いお月さまが顔を出したが、雲が出てきてお月さまを隠した。再び顔を出すお月さま。正面をむいたお月さまの表情とストーリーで赤ちゃんの心をつかむ絵本。
林明子 作
福音館書店

『くつついた』
ページをめくると…くつついた! その繰り返しで楽しい赤ちゃん絵本。最後は赤ちゃんのほつぺを挟んでお父さん、お母さんとくつついた! 赤ちゃんのまわりにいる大人までニコリ笑顔になれる絵本。
三浦太郎 作・絵
こぐま社

『くだもの』
みずみずしく描かれたくだもの。一口サイズになって「さあ、どうぞ」。思わず手をのびてしまうほど、おいしそう。写実的な絵とやさしい語りかけが魅力。
平山和子 作
福音館書店

『にんじん』
「にんじんのすきなこだあれ」の問いかけに次々と登場するのは、馬やきりん、いろいろな動物たち。「ああ、おいしい」と、みんなにんじんが大好きと、うれしそうに食べている。独特の質感の切り絵が楽しい絵本。
せなけいこ 作・絵
福音館書店

0～2歳

『ねこがいっぱい』

画面からはみ出しそうなほど「おおきいねこ」や、たれさがるひもにとびつこうとする愛らしい「ちいさいねこ」。ほかに「せいたかのつばい おちびちゃん」など、言葉に合わせた魅力的なねこたちがのびやかに描かれる。

グレース・スカール 作
やぶきみちこ 訳
福音館書店 ★



『どうぶつのおかあさん』

ねこ、らいおん、さるなどの動物のお母さんが子どもたちを運ぶ。温かみのある絵で動物の赤ちゃんとお母さんの触れ合いを描いた、ゆつたりとした気持ちになる絵本。

小森厚 文
藪内正幸 絵
福音館書店



3～5歳



『もこ もこもこ』

「もこ」や「によきによき」という不思議な言葉のリズムと、それにふさわしい絵が子どもの純粹な感覚を刺激する絵本。赤ちゃんから小学生まで幅広く楽しめる。

たにかわしゆんたろう 作
もとながさだまさ 絵
文研出版



『がたんごとんがたんごとん』

「がたんごとん がたんごとん」とやってきた汽車に、「乗せてくださーい」と乗りこむのは、ほにゅうびん。そして、コップやスプーンも次々と…。リズム感のある言葉や繰り返しのおはなしが、心と体を弾ませる絵本。

安西水丸 作
福音館書店 ★



『でんしゃ』

でんしゃ、貨物列車、蒸気機関車、いろんな電車が走っている。電車の安全のために、おじさんたちが働いているうちに、お客さんが乗ったり下りたり…。絵本にはじめて出会う赤ちゃんにぴったりの乗り物絵本。

パイロン・バートン 作・絵
こじままる 訳
金の星社 ★



『ちいさなうさこちゃん』

うさこちゃんはふわふわさんとふわおくさんのあいだに生まれたかわいい赤ちゃん。動物たちが次々にうさこちゃんを見にやってきて…。リズムカルな言葉と鮮やかな色使いが魅力の絵本。

ディック・ブルーナ 文・絵
いしももこ 訳
福音館書店 ★



『ぞうくんのさんぽ』

ぞうくんが散歩にでかけると、かばくんに会った。ぞうくんが「一緒に行く」と言うと、かばくんは「背中に乗せてくれるなら行ってもいいよ」と言い…。動物たちのやりとりが楽しい絵本。

なかのひろたか 作・絵
なかのまさたか レタリング
福音館書店 ★



『きんぎょがにげた』

金魚鉢から逃げた金魚が、カーテンの模様隠れ、植木鉢の花に隠れ、キャンディの中に隠れては、また逃げる。最後に金魚は、「もうにげないよ」と仲間と一緒に池で泳ぐ。探し絵あそびと「こんどはどこ」の繰り返しの言葉が楽しい。

五味太郎 作
福音館書店



『うずらちゃんのかくれんぼ』

うずらちゃんとひよこちゃんがかくれんぼをはじめた。お花のかげに隠れたり、へちまのかげに隠れたりしているうちに、雨が降ってきた…。うずらちゃんとひよこに、かくれんぼあそびができる絵本。

きもとももこ 作
福音館書店 ★



『ティッチ』

ティッチは小さな男の子。兄さんと姉さんは自転車を持っているのに三輪車しか持っていない。楽器も大工道具もティッチのものはどれも小さくて…。でも、ティッチの小さな種をまくと、ぐんぐん大きくなり、大逆転の結末にティッチは得意顔になる。

パット・ハッチンス 作・絵
いしももこ 訳
福音館書店 ★



『ゆうびんやのくまさん』

郵便屋のくまさんは一人暮らし。クリスマスもいつものように配達に出かけ、行く先々で喜ばれる。家に帰るとお風呂に入り、ご飯を食べながら自分あての小包の中身を考え、ベッドに入る。きちんとしたくまさんの一日には楽しめとともに安心感がある。

フィービー・ウォージントン 作・絵
セルビ・ウォージントン 作・絵
まさきるりこ 訳
福音館書店 ★



『しろくまちゃんのほっとけーき』

しろくまちゃんがお母さんと一緒にホットケーキを作る。材料を揃え、フライパンを火にのせて、ぴちぴち、ぷつぷつ。焼けたかな?そして、こくまちゃんを呼んで、二人で食べ、お皿も洗う。作る面白さ、共に食べる楽しさが伝わってくる。

わだよしおみ 文 わかやまけん 絵
森比左志 文 こぐま社 ★



『どうすればいいのかな?』

くまくんは、シャツをはいたり、パンツを着てしまったり。でも、どうすればいいのを考えて、うまく着替えてお出かけする。失敗しながら頑張る姿が、幼い子の共感をよぶ絵本。

わたなべしげお 文
おおともやすお 絵
福音館書店 ★



『もりのなか』

紙の帽子にラッパをもった「ぼく」が森へ散歩に出かけると、らいおん、ぞう、くま、色々な動物が行列を作ってついてくる。「はんかちおとし」や「ろんどんぱしおちた」で遊んだあと、かくれんぼうをする…。黒一色と地味だが、幼い子の空想の世界を描いている。

マリー・ホール・エッツ 文・絵
まさきるりこ 訳
福音館書店 ★



『しょうぼうじどうしゃじぶた』

じぶたは、ジープを改良した小さな消防車。大きい火事では出動できず、仲間の消防車たちや子どもたちも誰も氣にかけられない。ある日、山小屋が火事になり、じぶたは山道を登って大活躍する。小さくても働き者のじぶたの姿が子どもの共感をよぶ。

渡辺茂男 作
山本忠敬 絵
福音館書店



3～5歳

『だるまちゃんとてんぐちゃん』

てんぐちゃんの持ちものと同じものを欲しがるだるまちゃん。おとうさんのだるまどんが出てくれるものはどれもちよっと違う。団扇、帽子、履き物、花、結局だるまちゃんは家の中から自分なりに似たものを探します。だるまどんが出す沢山の物の絵も楽しい。

加古里子 作・絵
福音館書店 ★



『かばくん』

日曜日の動物園。11時になっても寝ていないかばは、「おきてくれかばくん」と男の子に声をかけられる。沢山の見物客がやってきて、なんだかうるさいと思ったり、キャベツを丸ごと食べたり。簡潔な文章と温かみのある絵でかばの一日を描いた楽しい絵本。

岸田鈴子 作
中谷千代子 絵
福音館書店 ★



『アンガスとあひる』

スコッチ・テリアのアンガスは好奇心旺盛。鳴き声が気になり家から飛び出して、初めてあひるを見て追いかけるが、反撃されて最後は逃げ帰ってくる。子犬とあひるの応酬は躍動感がありひきつけられる。

マージョリー・フラック 作・絵
瀬田貞二 訳
福音館書店 ★



『こすずめのぼうけん』

飛びかたを教わったばかりのこすずめは、お母さんすずめとの約束を破り、遠くまで飛んでいく。やがて飛び疲れ、休むところを探すが、みつけた鳥の巣では「仲間じゃない!」と断られてしまう。疲れ果てた時、こすずめを探していたお母さんすずめに出会う。

ルース・エインワース 作
堀内誠一 画
石井桃子 訳
福音館書店



『はらぺこあおむし』

はっぱの上のちっちゃなたまごからかえったあおむしは、おなかがぺっこぺこ。月曜日から毎日、りんごやなしをみつけて食べていく。色鮮やかなコラージュの絵に加えて、手であおむしが食べた穴に触れて楽しめる。

エリック＝カール 作
もりひさし 訳 偕成社



『わたしのワンピース』

もしも真っ白なきれが空から降ってきたら?うさぎはシンでワンピースを作り、それを着て散歩に出かける。すると、あら不思議、お花畑ではワンピースが花模様、雨が降ると水玉模様になる。詩のような「ラララン ロロロン」の繰り返しも楽しい。

にしまさかや 絵と文 こぐま社



『ぐるんぱのようちえん』

一人ぼっちでめそめそしていたぞうのぐるんぱ。町でも失敗続きだったが、子守を頼まれ作った幼稚園が大成功。失敗してもあきらめずに居場所を見つけるぐるんぱに共感できる。色鮮やかな絵とリズムカルな文章が魅力的。

西内ミナミ 作
堀内誠一 絵
福音館書店



『ちいさなねこ』

おかあさんねこの見ていない間に、子ねこが部屋から飛び出した。子どもにつかまりそうになったり、車にひかれそうになったり、大きな犬に追われたりと、ハラハラ・ドキドキの子ねこの冒険を描く。小さな子どもでも楽しめる一冊。

石井桃子 作
横内義 絵
福音館書店



『わにわにのおふろ』

きゅるりきゅるりきゅるり、わにわには蛇口をひねる。じゃばじゃばじゃば、お湯がたまる。お湯につかって、おもちやで遊んで、シャワーをマイクにうたを歌う。おふろが大好きなわにわにの絵本。

小風さ文 山口マオ 絵
福音館書店 ★



『ぐりとぐら』

いつも仲良しぐりとぐら。二ひきが森を散歩していると大きな卵を発見。お料理好きのぐりとぐら。二ひきが力を合わせて何ができるかな?絵本からとってもおいしそうなおいがしてきそう。子どもの心に残る一冊。

なかがわリエコ 作
おおむらゆに 絵
福音館書店 ★



『あおくんときいろちゃん』

あおくんときいろちゃんは大の仲良し。楽しく遊んでいるうちに、くっついて緑色になってしまった。おうちに帰ると驚いたパパとママから「うちの子じゃない!」と言われてしまい…。あおときいろのまるがまざりあう絵本。

レオレオーニ 作
藤田圭雄 訳 至光社



『どろんこハリー』

おふろ嫌いな黒いぶちのある白いぬ、ハリー。外で遊んで真っ黒になり家に帰るが、得意の芸当を披露しても家族は誰もわからない。そこで、ブラシを握り出し、自分からおふろに入れてと願う。ユーモアにあふれた絵とストーリーが子どもをひきつける。

ジーン・ジョン 文
マーグレット・ブローイ・プレミアム 絵
わたなべしげお 訳
福音館書店 ★



『ふゆめがっしょうだん』

冬の公園や雑木林で、木の芽を見てごらん。ほら、よく見るとウサギがいたりコアラがいたり。動物たちの顔に見えるところは落葉した葉の柄がついていた跡。身近に見られる木の芽の冬姿を拡大して写した愉快な写真絵本。写真に添えられた言葉も楽しい。

富成忠夫 写真 茂木透 写真
長新太 文 福音館書店



『はじめのおつかい』

初めてお使いを頼まれた5歳のみいちゃん。走る自転車に驚いたり、転んでお金を落としたり。お店でも小さな声しか出せず気づかれない。やっと頼まれた牛乳を買って帰ると、坂の下でママと赤ちゃんが待っていてくれた。初めての体験を子どもの視点で温かく描く。

筒井桃子 作 林明子 絵
福音館書店



『くまのコールテンくん』

デパートのおもちゃ売り場で売れ残っていたくまのコールテンくんは、大冒険の末、お金持ちではないけれどやさしいリサの家へ。暖かい色の絵で、人とのつながりや、穏やかなくらしの大切さを伝える。

ドン＝フリーマン 作
まつおかきょうこ 訳
偕成社



ほかにもこんな本がおすすめです

【0～2歳】

- 『あかちゃんのごきげんがよくなる12のわらべうたえほん』 小林衛己子 編 あべなな絵 ハッピーオウル社

- 『まるまる』 中辻悦子 さく 福音館書店
- 『ぶーぶーぶー』 こかぜさち 文 わざさかつじ 絵 福音館書店
- 『たまごのあかちゃん』 かんざわとしこ 文 やぎゅうげんいちろう 絵 福音館書店
- 『ぼんちんぼん』 柿木原政広 作 福音館書店
- 『サンドイッチサンドイッチ』 小西英子 作 福音館書店
- 『おいしいおと』 三宮麻由子 文 ふくしまあさ絵 福音館書店
- 『ぺんぎんたいそう』 齋藤慎 作 福音館書店 ★
- 『タンタンのずぼん』 いわむらかずお 作 偕成社 ★
- 『ぎったんぱっこん』 なかえよしを 文 上野紀子 絵 文化出版局

- 『くまのティディちゃん』 グレタ・ヤヌス 作 ロジャー・デュボアザン 絵 湯沢朱実 訳 こぐま社
- 『おやすみ』 なかがわリエコ 作 やまわきゆりこ 絵 グランまま社
- 『おやすみなさいコッコさん』 片山健 作・絵 福音館書店 ★
- 『だれかしら』 多田ヒロシ 作 文化出版局
- 『まるみつけた』 大塚いちお 作 福音館書店 ★
- 『ねずみのいえさがし』 ヘレン・ピアス 作 まつおかきょうこ 訳 童話屋 ★
- 【3～5歳】
- 『いたずらこねこ』 バーナディン・ワック 文 レミイ・チャーリップ 絵 まさきるりこ やく 福音館書店
- 『ぼくのくれよん』 長新太 おはなし・絵 講談社
- 『しんせつなともだち』 方軫華 作 君島久子 訳 村山知義 画 福音館書店
- 『おやすみなさいフランシス』 ラッセル・ホーバン 文 ガース・ウィリアムズ 絵 まつおかきょうこ 訳 福音館書店

- 『しろいうさぎとくろいうさぎ』 ガース・ウィリアムズ 文・絵 まつおかきょうこ 訳 福音館書店
- 『おかえし』 村山桂子 作 織茂恭子 絵 福音館書店
- 『ゆかいなかえる』 ジュリエット・キープス 文・絵 いしももこ 訳 福音館書店
- 『はなをくんくん』 ルース・クラウス 文 マーク・シーモント 絵 きじまはじめ 訳 福音館書店
- 『せんたくかあちゃん』 さとうわきこ 作・絵 福音館書店 ★
- 『はろるとむらさきのくれよん』 クロケット・ジョンソン 作 岸田鈴子 訳 文化出版局 ★
- 『ガンピーさんのふなあそび』 ジョン・バーニンガム 作 みつよしなつや 訳 ほるぷ出版 ★
- 『11ぴきのねこ』 馬場のぼる 著 こぐま社 ★
- 『ちいさなヒッポ』 マーシャ＝ブラウン 作 うちだりさこ 訳 偕成社
- 『ふわふわくんとアルフレッド』 ドロシー・マリノ 文・絵 石井桃子 訳 岩波書店
- 『くんちゃんのはたけしごと』 ドロシー・マリノ 作 まさきるりこ 訳 ペンギン社 ★
- 『どうながのプレッツェル』 マーグレット・レイ 文 H・A・レイ 絵 わたなべしげお 訳 福音館書店

- 『ちいさいじどうしゃ』 ロイス・レンスキー 文・絵 わたなべしげお 訳 福音館書店 ★
- 『おふろだいすき』 松岡享子 作 林明子 絵 福音館書店
- 『おじさんのかさ』 佐野洋子 作・絵 講談社
- 『サリーのこけもつもつみ』 ロバート・マックロスキー 文・絵 石井桃子 訳 岩波書店
- 『しずくのぼうけん』 マリア・テルリコフスカ 作 ボフダン・ブテンコ 絵 うちだりさこ 訳 福音館書店
- 『これはのみのぴこ』 谷川俊太郎 作 和田誠 絵 サンリード
- 『ぶたたぬききつねねこ』 馬場のぼる 著 こぐま社 ★
- 『きよだいなきよだいな』 長谷川摂子 作 降矢なな 絵 福音館書店

【昔話本】

- 『ももたろう』 まつただし 文 あかばすえきこ 絵 福音館書店
- 『うらしまたろう』 時田史郎 再話 秋野不矩 画 福音館書店
- 『かにむかし』 木下順二 文 清水崑 絵 岩波書店